

平成 27 年度 第 4 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 28 年 2 月 18 日（木） 15：00～17：00

2 開催場所

札幌市役所本庁舎地下 2 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、阿部委員、中川委員、武者委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局契約管理担当局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 8 名

4 次第

(1) 開会

(2) 財政局契約管理担当局長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 報告事項

ア 工事等発注状況について（平成 27 年度 12 月末）

(5) 平成 27 年度の意見書について

(6) その他

(7) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

【委員長】 工事の契約金額が前年度比で減少しているが、大型案件である WTO の対象工事が前年度より少なかった影響と考えてよいか。

【札幌市】 そのように捉えている。前年度は水道局において大型の WTO 対象工事の発注があった。加えて、平成 25、26 年度は国からの補助で小中学校の耐震補強工事を多く発注していたことも影響していると考えている。

【委員長】 工事のくじ引き発生割合が大きく増加しているが理由は何か。経費率の改定により利益が確保しやすくなり、最低制限価格付近での入札が増えたということか。

【札幌市】 そういった傾向もあると思われる。また、従前より細かい情報公開を行っている部署があり、一部の工種で積算が容易になったことも要因の一つと思われる。

(2) 平成 27 年度の意見書について

【委員長】 意見書の 1 点目は、適切な競争の促進という観点から、委員会において話題となった内容を踏まえ、特に、『長期的な視野での健全な技術者の育成』と『行き過ぎた地域重視を避けたうえでの地元事業者の健全な育成』に着眼し、バランスのとれた制度を適切に運用していく必要があることを盛り込んだ。

【委員】 札幌市の取組みを評価する部分において、制度の運用や解釈に誤解を招かないよう、具体的でわかりやすい表現に改めた方がよい。

【委員長】 地元の人材と機材を抱えておかなければ、災害等いざというときに対応ができないということも踏まえて、地元で技術力のある人を置くために、健全な中小企業の育成を図りたいという理念が根本にある。

【委員】 地域優先が強調された表現になると、公平な競争に欠ける制度であるという印象を与えかねないので、適切に趣旨が伝わるような文章表現に見直す必要がある。

【委員長】 2 点目は、品質確保に向け、技術力を重視した入札方式の活用を図るという観点から提言している。

【委員】 成績重視型入札における現状の課題が具体的にどのような事例を指しているのか、説明不足でわかりにくい。

【委員】 成績重視型入札の『品質確保とインセンティブの効果』という表現に不足感がある。品質確保への努力が評価されて入札参加インセンティブが付与されるという制度設計の趣旨を示したうえで、その効果が発揮されていないとの課題を示した方がわかりやすい。制度の仕組み上、品質確保とインセンティブの付与は切り離せないことは理解しているが、どちらにより重点が置かれていると整理すべきか確認したい。

【委員長】 品質確保が上位にあると捉えている。

【委員】 同感だ。その点も含みを持たせた表現がよい。

【委員長】 最終的に、『透明性の確保により価格競争が起きにくい状況に陥った故に、技術的な評価をきちんと行い、良い仕事をした技術力の高い人が受注しやすい仕組みにしていかなければならない』という意図につなげたい。

企業のモチベーションを高める手段として、インセンティブの付与を挙げるのは段階的に飛び過ぎている。

【委員長】 『優れた成果が適正かつ即時的に評価される仕組みの導入が有効』というまとめとしたい。次の総合評価については、現行制度の評価としては、固定化の改善が見られると断言していいのか。

【委員】 回りくどい表現が散見される。

【委員長】 細かい文言の修正と併せて、1 番目の表題も再検討したい。

(3) その他

【委員長】 本日いただいた指摘を踏まえ、事務局と修正した意見書を委員の皆様にご覧して詳細を詰めていくこととする。